

## 国内経済情勢

### 概観

貿易収支は季節的な入超期にもかかわらず、輸出の好伸と輸入の落ち着きによりかなりの黒字を示している。

一方、年初来一時底固めの気配がうかがわれた商品市況は、生産調整が需要の実勢に比べまだ十分でないうえに、最近中規模企業の倒産等の影響も加わって、このところ主力商品を中心に、頭重い商状を呈している。企業の生産や投資態度は引き続き鎮静している。また金融機関の融資態度ならびに企業の資金需要も総じて落ち着きを続けている。

この間消費者物価はなお上昇を続けており、その動向には引き続き注意する必要がある。

#### 国際収支は引き続き改善

2月の外国為替収支は、資本収支が短期資本の払超を主因に赤字となったものの、経常収支の受超により総合で23百万ドルの黒字となった。経常収支の内容をみると、貿易外収支では特許権使用料の季節的な支払増から赤字幅がやや拡大したが、貿易収支は輸出の続伸と輸入の減少から、入超期であるにもかかわらず95百万ドルの大幅な黒字(季節調整済みでは136百万ドルの黒字)を記録した。

2月の輸出は、前年同月に比し、為替で+25%、通関で+41%と好調を持続、季節性をならした実勢でも前月比為替で+2%、通関でも+1%と順調に増加した。商品別の動きを通関で見ると、船舶、自動車、鉄鋼、化学肥料など重化学工業製品が好伸しているほか、合繊、繊維二次製品も増加している。先行指標をみても、当月の輸出信用状は前年同月比+28%とこれまでの増勢を維持している。

2月の輸入は、前年同月に比し為替で-13%、通関で+1%と落ち着いた動きを示した。特に季節性をならした為替輸入は前月比60百万ドルの著減

をみている。当月の輸入においては、米国港湾ストライキの影響が、通関面に比べ為替面に強くあらわれている。すなわち、商品別の動きを為替面でみると、石油、金属原料などには比較的底堅い動きが見受けられるが、その他は食料、繊維原料、化学品、機械などいずれも前年同月の水準をかなり下回っている。また地域別にみると、対米輸入が、とうもろこし、大豆、米綿、くず鉄、機械などを中心に前年同月比3割方減少している。これに対し、通関面では、これら対米輸入の比重の高い商品の輸入水準は為替に比べ相対的に高く出ている。

当月の為替輸入の減少は、国内経済活動の落ちつきを反映したものであることはいままでもないが、上述のような品目別、地域別の動向などからみても、米国東海岸における港湾ストライキの影響が強く出ていることは否定できない。

こうした事情を勘案すると、港湾ストライキの解決に伴い、その反動増が出てくることが予想されるうえに、現在在庫が不足ぎみとなっている一部の金属原料については若干の在庫補充が行なわれるものと見込まれるので、輸入が当月のような低水準を持続する公算は少ない。ただ、先行指標である輸入信用状や輸入承認の動きなどからみると、さしあたり輸入が急増することはまずあるまいと思われる。

なお、先般の米国の国際収支対策強化に伴って、当月の資本流入には、若干その影響があらわれており、今後の成行きが注目される。

#### 商品市況は主力商品を中心に頭重い商状

最近の商品市況をみると、石油(揮発油)、紙(上質紙)、セメントなど、小幅の上伸ないし強含みを呈するものも見受けられるが、主力商品である鉄鋼、繊維が1月後半以降の軟化傾向を依然あらためていないのをはじめ、非鉄(銅)が3月にはいつてからも微落し、塩ビも軟弱化するなど、総じて頭重い商状を呈している。

こうした商況の動きは、需要期を迎えながら期

待された程の実需が依然盛り上がっていないこと（鉄鋼——自動車、弱電、建設などの引合い低調、繊維——機屋筋の糸手当不活発）、メーカーの生産調整が必ずしも十分でないこと、等によるものと思われるが、そのほか最近の中規模企業の倒産などの心理的影響も見のがせない。こうした状況からみると、商品市況は、当面主力商品を中心に不ざえぎみに推移する公算が少なくない。

2月の本行卸売物価は、上記商品市況の動きを映じて、鉄鋼、非鉄、綿糸布などが低落した反面、食料品、雑品目が原料高や米国港湾ストライキの影響で上昇したため、総合で前月比保合いとなった。

なお3月上、中旬の卸売物価は、繊維、普通鋼、非鉄の軟化を主因に、前旬比それぞれ-0.1%、-0.2%と微落した。

2月の消費者物価（東京）は、バス代や家賃地代が値上がりした反面、冬物衣料の整理安がみられたため、前月比+0.1%の微騰にとどまったが、3月は、野菜、鶏卵など食料品の上昇を主因に前月比+1.6%と再び騰勢が強まり、前年同月比+7.4%の高水準となった。先行き授業料、水道料などの公共料金をはじめフロ代の値上げ等の動きもあるので、消費者物価の動向については引き続き注目の要がある。

### 生産、設備投資は総じて着き持続

生産は引き続き落ち着いている模様で、鉱工業生産（季節調整済み）は1月+0.4%のあと、2月は速報で-0.8%の減少となった。その内容をみると、生産財が薄板、合繊、洋紙など生産調整品種を中心に減少したのが目立っている。一方、資本財は徐々に増加したが、これは主として電力向け大型機械の完工によるもので、汎用機種、トラックなどでは引き続き減少をみている。建設資材は亜鉛鉄板、磨板ガラスを中心に減産となり、耐久消費財も総じて弱含み横ばいを示した。

2月の鉱工業出荷（季節調整済み）は速報で+0.7%の微増を示したが、これは、電力向け大型機械や耐久消費財（自動二輪車、夏物家庭用電器、テレビ等）の出荷増によるもので、生産財では、生産同様にかなりの減少がみられた。

2月の鉱工業製品在庫（季節調整済み）は速報で-0.4%の微減をみ、在庫率も久しぶりに-1.0%

と低下した。これは、生産財が増加したものの、資本財、消費財がいずれも減少したためである。生産財の増加は塩ビなど化学の在庫増大によるもので、生産調整品種のうち、粗鋼、特殊鋼、人絹糸、合繊等では微減となった。

一方、企業の設備投資は、一般資本財出荷の引き続き減少や民需関係の機械受注の減退傾向からみて、総じて鎮静しているものと思われる。本行の主要企業短期経済観測や中小企業業況予測（いずれも2月時点調査）によってみても、大企業、中小企業ともに設備投資は当面落ち着いた足どりを示すものと見込まれる。

この間、労働力市場をみると、最近の経済活動の落ち着きを映じて、求人活動はいくぶん鈍化のきざしを呈しており、企業のなかには求人申込みの取消しや削減を行なうものも散見されている。

### 銀行の融資態度、企業の資金需要はいずれも着きを持続

2月の金融市場は、銀行券がやや増勢を強めたうえに、財政資金も1,340億円の引揚超過を示したが、1,200億円に上る本行の債券買入れによりおおむね平穩に推移した。この間、コール市場は、中旬一時小ゆるみを呈したほかは、都銀筋の準備預金積増し需要（上旬）ならびに給与支払、月末決済資金等の現金需要増高（下旬）により小縮まりぎみとなった。

2月の全国銀行貸出増加額は1,324億円と引き続き前年同月の水準を下回った。これは、企業の資金需要が採算面への配慮や季節的事情などから目立った動きを示していないうえに、銀行側でも資金ポジションの改善かたがた特に最近の中規模企業の倒産をみて、債権保全の見地から選別を一段と強めているためである。

一方、2月の資金需要の内容をみると、増産、増販に伴う前向き資金は造船、自動車等一部大企業を除いては目立ったものはみられず、また回収条件悪化に伴う不足資金も増勢頭打ちとなっているが、これにかわって、減産資金や赤字補てん資金などが多くの業種にわたって漸増しつつある。

この間、企業倒産は、2月中も引き続き高水準を持続し、3月にはいつてからも、この傾向はあらたまるに至っていない。